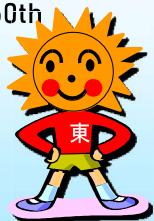


50th



川越市立霞ヶ関東小学校だより

学校教育目標

たいよう

第8号 令和6年11月29日(金)

【た】 たくましい子
 【い】 生き生きと活動する子
 【よ】 よく考える子
 【う】 美しい心の子

夢をあきらめない

校長 関根 努

2学期も終わりに近づきました。今学期は多くの行事で活躍した子供たちの姿や教室で見せる真剣な学びの顔など、心に残るシーンが数多くありました。運動会で精一杯走る子供たち、特に6年生は小学校生活最後の運動会なので、力強い走りや演技、堂々とした言葉には深い感動を覚えました。

また、先日の創立50周年記念式典では多くのご来賓の方々にご臨席賜り、厳肅な雰囲気の中で式典を執り行い、子供たちと一緒に霞東小の新たな歴史の一日を刻むことができました。私からは「夢」について話をしました。子供たちは、これから新たな学校の歴史を一年一年築いていくこととなりますが、それぞれの夢に向かって頑張ってもらいたいと願っています。

そこで、夢をあきらめず、見事に動物園を閉園の危機から救った前旭山動物園園長の小菅正夫（こすげ まさお）さんのお話を紹介します。小菅さんは、皆さんもご存じのように、閉園寸前の動物園をペンギン館やアザラシ館等の行動展示で、入場者数日本一に導き、見事経営を立て直したことで有名です。

しかし、そこには、動物園の職員がみんなで知恵を出し合い、心を一つに並々ならぬ努力があったのです。動物園の職員は、動物の生態についてはプロですからよく熟知していますが、経営については全くの素人です。そこで、行動展示（動物の生きていくための本来の動き）を思いつき、全員が危機感を共有し取り組んだのです。慣れない仕事に戸惑いや不安はあったと思いますが、何としても動物園を存続させたいと強く願うみんなの思いが一つになり、従来の動物園とは異なる新しい価値観の創造で経営危機を乗り越えたのです。



小菅さんの話の中に次のような言葉がありました。「入園者に動物たちが住んでいる生態系に関心をもってもらい、ひいては、動物と人間が共存できる地球環境保護に尽くすのが自分たちの仕事だと思っている」と。また、「努力している時が、人間一番生き生きしている」と。自分たちの仕事に誇りをもち、夢に向かってあきらめず地道に努力することの大切さを感じます。

子供たちには、なりたい自分をしっかり描き、それぞれの夢に向かってあきらめることなく地道に努力する、そんな人になってほしいと願っています。

